

千葉・浜野川遺跡

1 所在地 千葉市南生実町

2 調査期間 一九八五年(昭60)六月～一九八六年三月

3 発掘機関 財千葉県文化財センター

4 調査担当者 伊藤智樹・金丸 誠・山田貴久

5 遺跡の種類 遺物包含地

6 遺跡の年代 縄文時代前期、弥生時代中期、古墳時代後期～中

・近世

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(千葉)

浜野川遺跡群は、千葉市の南端部に位置し、標高六m前後の海岸平野上の低湿地遺跡である。遺跡の北側は、中世の小弓城跡のある台地と接し、南側は水田地帯を挟んで村田川をのぞんでいる。河川改修と都市計画道路建設事業にともなう発掘調査では、縄文時代前期の貝塚と弥生時代中期の包含層を確認し

た。古代・中世の遺構は検出されず、遺物も、やや渾然一体とした状況で出土した。後者の遺物としては、曲物・漆塗の椀などの破片があげられる。木簡は、調査区東端でそれらの遺物などと共に包含層より出土した。

8 木簡の釈文・内容

(1) 鬼カ (符籙) 急如律令

(80) × 20 × 2 019

文字はいずれも赤外線テレビにより判読した。木簡の上部に墨痕は認められるが判然としない。通常この種の呪文では「急」の後に「々」の文字のみえることが多いが、本例では認められない様である。

(金丸 誠)